

授業科目

救急症候学II

担当教員名 羽柴 正夫	対象学年	2	対象学科	救急
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	○	

授業の概要

検査が十分にできない病院前での活動において、適切な医療機関選定を行うためには、患者に認められる症状・所見をもとに病態を推測し、さらにはどのような治療が必要となるかまでを考えることが重要である。

本科目では、代表的な救急症候である胸痛、動悸、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温異常（体温上昇・低体温）について、それぞれの症候、病態生理とともに、症候・病態に応じた観察・評価、疾患の鑑別および救急対応等を学習する。

授業の目的

代表的な救急症候である胸痛、動悸、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温異常（体温上昇・低体温）について、それぞれの症候、病態生理とともに、症候・病態に応じた観察・評価、疾患の鑑別および救急対応等を理解する。

本科目で学習する内容は、救急病態生理学および疾病救急医学で学ぶ内容と表裏一体のものであることから、これらを統合した理解が必要となる。

学習目標

1. 代表的な救急症候である胸痛、動悸、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温異常（体温上昇・低体温）について、それぞれの症候、病態生理を理解するとともに、症候・病態に応じた観察・評価、疾患の鑑別および救急対応に関する専門的な基礎知識を習得する。

本科目で学習する内容は、救急病態生理学および疾病救急医学で学ぶ内容と表裏一体のものであることから、これらを統合した基礎知識を習得する。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	胸痛（1）	講義	羽柴 正夫
2	胸痛（2）	講義	羽柴 正夫
3	動悸（1）	講義	羽柴 正夫
4	動悸（2）	講義	羽柴 正夫
5	腹痛（1）	講義	羽柴 正夫
6	腹痛（2）	講義	羽柴 正夫
7	吐血・下血（1）	講義	羽柴 正夫
8	吐血・下血（2）	講義	羽柴 正夫
9	腰痛・背部痛	講義	羽柴 正夫
10	体温異常（1）：高体温（1）	講義	羽柴 正夫
11	体温異常（2）：高体温（2）	講義	羽柴 正夫
12	体温異常（3）：熱中症（1）	講義	羽柴 正夫
13	体温異常（4）：熱中症（2）	講義	羽柴 正夫
14	体温異常（5）：偶発性低体温症	講義	羽柴 正夫
15	まとめ	講義	羽柴 正夫

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015年	9,800円＋税	1年次購入済
参考書						
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。					

評価方法

科目試験（100%）

不合格者に対しては、1回再試験を行う。

必要な場合、レポートを課し、その結果も評価対象とする。

履修上の留意点

本科目では、基本的事項を効率よく理解するために、指定の教科書を使用する。

授業前に教科書を熟読しておくこと。授業中は、講義内容を理解し、重要な事項はその場で頭に入るように配慮した講義を行うので、ノートはとらず、メモ程度にして考えるゆとりを作る。授業後の復習も必須である。

科目試験の受験資格は、1～15回目の授業のうち10回以上出席を条件とする。

オフィスアワー・連絡先

授業時に確認すること